

未来の森林の姿、森林づくりの手法 (案)

□森林生態系と生物多様性の危機

- ・森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるためには、森林・林業の循環による持続可能な森林づくりが必要
- ・持続可能な森林は、健全で強固な森林生態系によって維持・増進。その生態系も、豊かな生物多様性に支えられている。
- ・日本の生物多様性は、その豊かさが失われる危機にあるホットスポットとして、世界から注目されている現状
- ・危機を大別すると、いずれも人間活動、人為の影響によって引き起こされたもの
 - ①「開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生息地の減少」
 - ②「里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下」
 - ③「外来種などの持ち込みによる生態系の攪乱」

□植樹の目的

- ・適切な植樹の実施により、生物多様性を増進させ、豊かな森林を育み、未来へつなぐことができることを全国発信

□植樹予定森林（生物多様性損失の危機にある森林）

- ・鏡ヶ成：放置された開墾地（上記①に該当）……数十年放置された現在でも、侵入した木本類は低木が主体
- ・花回廊：利用されなくなった里山（上記②に該当）……草木が乱雑にしげった「やぶ」状態

□目標とする森林の姿

- ・森林生態系の健全性を維持・増進しつつ、その活力を利用して、県民の多様なニーズに永続的に対応できる森林

□森林づくりの手法

場所	方向	植栽樹種	施業・管理の考え方
花回廊	<ul style="list-style-type: none"> ・県民が気楽に入山・利用する、里山の復活 ・高木性広葉樹が混交する見通しの良い明るい林分 ・部分的に、花や紅葉などを楽しむ森林 	<ul style="list-style-type: none"> ・カブトムシやクワガタ等昆虫の好む樹液を出す樹種 ・キノコや果実のなる樹種 ・花や紅葉等の美しい樹種 ・燃料や堆肥等バイオマス利用が可能な樹種 	<ul style="list-style-type: none"> ・里山林を構成するクヌギやコナラ・クリ等を植栽 ・更新を確実にするため、下層植生を刈り払い林床を明るく管理 ・植栽木が生長し伐採利用が可能となる林齢以降、伐採と天然更新を繰り返し里山林を再生。 ・かつて、里山林を利用しながら維持してきた地元住民の役割を、今回の再生では、森と親しみながら共生してゆくりライフスタイルを指向する県民に任せる。 ・例えば、ストーブ用の薪やシイタケ栽培用の原木を希望する者に、毎年何本かの伐採を許可する等により、県民に広く開放する。
鏡ヶ成	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園内の自然に配慮 ・厳しい気候等現地に適した高木性樹種を中心とした、森林を早急に回復 ・環境条件に適合した大径木の多い森林 	<ul style="list-style-type: none"> ・林内に既に成立する自然ばえを可能な限り多く残す（中低木も含む。） ・現状では被圧されているが、周辺森林には自生する高木性樹種 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地適性の高いナラ類を中心とした森林づくりを行う ・ナラ類の稚幼樹は、中低木性樹種による被圧を予想。階層構造の発達した森林への早期誘導を目指して植栽を行うが、雪害防止のため、林内に成立する樹種を可能な限り残しながら育成 ・雪害の心配がなくなる時期に、被圧解消のための中低木性樹種の除伐を行う。それ以降は、必要以上の管理は行わない。